

11.13 銚子支部第3回定期大会いっか

勝利争闘ジェット三里塚 / 砕粉革行調臨

発員通部

銚子支部第三回定期大会は、組合員九九%の参加をもって十一月十三日、十三時より開催され成功裡に終了した。秋葉支部副委員長の力強い開会宣言をかわきりに、終始なごやかなうちにも、現情勢下で、具体的に開始された国鉄当局の労働運動解体攻撃にいかにか全組合員が団結して反撃するのかが真剣に討論され職場における闘いの方針を全体で確認した。

銚子支部は一致団結して

ガンバロー
―宮崎支部長あいさつ―

冒頭あいさつに立った宮崎支部委員長は、動労「本部」反動分子との組織争闘戦の最中に、動労千葉十一番目の支部として旗上げして、一年四ヶ月を全組合員一丸となって闘い抜いてきた。この自信と確信のうえにたつて、今日の国鉄労働者に向けられた攻撃を厳しく見すえること、すなわち「ヤミ・カラ・キャンペーン」に始まった労組攻撃は、既得権剥奪、仲裁々定の凍結の動向とどまることをしらない。第二臨調攻撃は、国鉄再建が目的でなく、あきらかに大合理化を先頭とした労組破壊が目的である。こうした中であつて、動労本部は、五七・一・ダイヤ改悪反対闘争に目をつぶり、仲裁々定完全実施要求をはじめとする労働者の怒りのストライキに唯一反対をとなえる単産となった。もはや労組とは名ばかりの集団である。われわれは、誰が敵か、味方かをはっきりさせ、生活と権利を自らの闘いで守ること、そのために銚子支部は、今日までの闘いを、層層展させ、一致団結してガンバロー。

そして、八三年地方統一選挙にいよいよ動労千葉から出馬した中江候補を何んとしても当選させるため、全組合員は総力をあげて闘い抜こう。」と訴えた。

本部水野副委員長、
中江顧問
をむかえる

つづいて本部水野副委員長が、動労千葉の闘いの方向性と銚子支部全組合員の奮闘を訴えた。さらに、中江顧問は、今日の内外情勢、とりわけ国鉄情勢についてくわしくのべ、こうした激動期にいかにか労働運動の原則をもって闘うのかということ、八三年地方選船橋市議選に断固として立候補し必勝することを訴え、その中で、この選挙闘争は、単に中江としてではなく、動労千葉が分離独立以来の闘いを、正義性を社会的に明らかにするものとして、動労千葉の中江として闘い抜くという力強い決意を全組合員に訴えた。

活発な質疑応答で

大会が成功裡にかちとられる

議長に林信一氏が選出され、秋葉副委員長による一年間の闘いの経過報告と、早船書記長による運動方針(案)の提起をもって、質疑討論に入り支部執行部の闘う方針に全面的に賛成し、自らの闘いとする立場から、多くの質問、意見が出された。

- 主なものは、次のとおりである。
- ① 五七・一・ダイヤ改の闘いについて、
 - ② 仲裁々定凍結の動向と年末手当について、
 - ③ 乗務員分科会、検査分科会、青年部運動のそれぞれ発展と位置づけについて、
 - ④ 現協・バス廃止の攻撃について、
 - ⑤ 三六協定を戦術とする非協力闘争の展望について、
 - ⑥ 動労本部の動向について、
- 等々が出された。
- 執行部側より、それぞれ答弁があり、総括的に宮崎支部長が、今秋から来春にかけて「一人ひとりが活動家に、を合言葉にがんばっていくことをのべ、執行部提案通り一九八二年度運動方針を採択し、団結ガンバロー三唱で大会を終了した。



全組合員のかで中江選挙勝利を
一人5票獲得 運動を貫徹しよう